

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(インド)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門
特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2017年9月10日~9月24日の期間で、インド・バルーチとダヘージにおいて3度目となるCIS(カップリング・インターンシップ)を実施しました。インドでの連携大学はインド工科大学ハイデラバード校(IITH)であり、IITH4名の参加学生はハイデラバードからの参加となりました。バルーチはグジャラート州に位置し、デリーから西に飛行機で1時間ほどのパドーダラ空港から更に車で2時間程に位置する町です。そこを宿泊拠点とし、CISの事前研修はホテルにて2日間実施しました(日系企業理念、CSR、5S、QCサークル活動、コミュニケーション、接合基礎などの講義。)その後、5日間の行程でISGEC/日立造船が工場を構えるダヘージにて企業実習を行いました。ダヘージへはバスで片道1時間の距離です。ISGEC/日立造船での実習では、会社紹介、人事部、プランニング部、プロジェクト部、デザイン部、溶接部他、各部署からの業務説明を始め、製品積み込み港の訪問など、製造工程から製品輸送までを細かく学びました。他方、幹部層、ショップで作業をするワークマンやオフィススタッフへのインタビ

ューの機会も多々あり、今回のテーマとなっていた「スタッフ幹部とワークマンリーダーのコミュニケーションの課題と対策」に即した沢山の質問を投げかけ、意欲的に取り組みました。

最終報告会には、ISGEC/日立造船のSanjay社長、Raiチーフオペレーティングオフィサー始め各部門長の方々、日立造船デリー事務所より堀内社長、山田様、日立造船より白木常務取締役、北川取締役他、合計24名の参加がありました。学生は2週間を通して取り組んだ課題に対する発見と提言について各チーム毎に発表しました。良好なコミュニケーションのために必要なことを、言語、モチベーション、異文化理解、安全性などの観点から分析し、それぞれに対し学生らしい発想力に基づいた提案も含めた発表となりました。企業の方からは短期間で良くここまで考察したと高い評価を頂戴することができ、学生にとって充実したしめくりとなりました。

学生達は滞在中、近隣のヒンドゥー寺院訪問、グジャラート州由来のお祭りなどの文化体験も行いながら、異文化理解と友情を深めました。

